

令和元年度第3回放課後子どもプラン運営委員会会議録

日 時 8月30日(金) 午前10時00分から11時00分

場 所 801会議室

出席者 田中委員長、浦野副委員長、石原委員、志波委員、佐藤委員、多田委員、大久保委員、並木委員、増山委員

関生涯学習課長、林公民館長、浜田指導室長、鈴木児童青少年課長、富田子育て支援課長

富沢コーディネーター、伊藤コーディネーター、湊上コーディネーター、成田コーディネーター、森田コーディネーター、西田コーディネーター、吉田コーディネーター、伊野コーディネーター

小堀生涯学習係長、鈴木生涯学習係主任

欠席者 前田委員、黒田委員、旭岡委員、菊池図書館長、松井庶務課長

傍聴者 1名

1 議 事

(1) 各小学校区の事業の進捗状況等について報告

【一小】今年度から居場所開放型の教室として図書室開放を始めた。PTAで行っている火及び木曜日の校庭開放を、放課後子ども教室で行うための話し合いをした。

【二小】一学期は、38回行った。二学期は試しで校庭遊びを行う。

【三小】今年度から始めたバドミントン教室も順調に行われた。

【四小】一学期は、25回実施した。雨が多く7回校庭遊びが中止になった。

【東小】一学期、夏休みとも順調に行われた。

【前原小】6月から教室が借りられるようになり、雨天中止がなくなった。

【本町小】一学期は雨で中止が2回あったが43回した。10月から月曜日に校庭開放を始める。今年はスタッフが8人増えた。

【緑小】一学期は明日を含めて40回開催。二学期は50回を予定。今年度から英語教室を開始した。

【南小】一学期は11回開催。今年度から希望者は帰宅せずに参加できるようになって参加が増えた。

【実行委員会】

① 今年度の予算に対する各校区の予算配布決定の報告(資料)

今年度の予算増額分はイコール人件費単価増額分であり、各校区とも回数増などの事業拡大にはつながらず、年間予定回数を実施するのが困難な事態が発生している。諸事情により中止になった教室の予算を不足分に充当して調整するが、なお不十分である。追加の予算申請についてご検討いただき、可能であれば確保していただきたい。

② 今年度の実行委員会預かりの予算について

小金井市の中学校区は現状維持という方針に則し、今年度の緑中放課後カフェの活動については、昨年度の実績ベースを元に18回とする。

③ 実行委員会では、子どもの放課後の安全で安心な居場所として、各校区の放課後子ども教室が果たせる役割や方向性など、地域の自然環境、学校環境、社会教育施設なども加味しながら、改めて地域のニーズに合った事業の展開を目標に検討を重ねていきます。また、週五日制の導入については、各校区の推進委員、安全管理員、学習アドバイザーの方のご理解とご協力はもちろんのこと、生涯学習課、児童青少年課の強いリーダーシップと各関係部署の代表、運営委員会の皆様のご理解とご協力なくして実現はできません。是非、小金井市全体の取り組みとしてお力添えいただきますよう子どもたちのためにもよろしくお願いいたします。

【内部委員】各校で、在籍児童以外の私立の児童等の受け入れ実績や来年一年生になる児童の見学・体験の受け入れの体制があるか。

【コーディネーター】前原小で今年度南小の児童を1名。今までには、学芸や他の私立の児童を受け入れた。

【コーディネーター】三小も国立・私立の児童を受け入れている。学校区にいるお子さんは、受け入れる。見学も問題ない。

【コーディネーター】一小でも学校区内に住まれていれば受け入れている。ただ、学校が遠いため始まる時間に間に合わなく、結局来なくなることが多い。未就学児の見学の要望はないがあれば応じる。

【コーディネーター】緑小は、緑児童館の工事があつたときに、三小の子を受け入れた。問い合わせがあつた場合、受け入れている。

【コーディネーター】南小では、今は教室なのでないが、以前校庭開放をやっていたとき、学校区内の他の学校の児童は受け入れていた。

【コーディネーター】ニ小は、兄弟関係で学芸の児童が来たことはあつた。学校区での考え方ということで受け入れの対応はしてきた。

【コーディネーター】学芸大小学校の児童クラブは、学芸以外の児童を受け入れているか。

【内部委員】試行的に行っていると聞いているので、学芸大の児童しか行かれてないのではないか。

【外部委員】学芸大の小学校の中に学童があるとは聞いたことがない。

【内部委員】学芸大の保育園のあるところにあると聞いている。学芸大の中で試行的にやっていると聞いているので、はっきりと学童保育所という位置づけにはなっていないと思う。

【委員長】都合により、次の議事の前に先に公民館長から資料「公民館主催事業及び利用統計」の報告をしてもらう。

【内部委員】子どもの居場所についての公民館の取り組みですが、緑分館では、夏休み中の日中の時間帯に勉強スペースとして教室を開放している。貫井北分館ではフリースペースの混み具合により、予約が入っていない場合、部屋を開放している。全公民館のロビースペースは自由に使える。週に何回かは本館において、子どもたちが集まって、話をしたりゲームをしたりしているのを見かける。資料の説明をさせていただきますと、全体の事業をまとめたものですが、まず一番上の方に

少年教育事業というのがありまして、子ども関係の事業をこれだけやっておりますので参考にしていただければと思います。一番上の子どもの人権講座というのは、子どもが対象というわけではないのですが、その他のものは子どもから親子の対象となっている。一番最後の公民館利用統計のところで、利用率の記載があります。子どもの居場所のスペースについて、今後生涯学習課と調整しながら推進・拡充できればと思っている。

【外部委員】公民館の場所を借りるときは、抽選をして当たったら使えるが、部屋を確保しようとしたときに、毎週決まった時間帯を確保できるか。

【内部委員】現時点の利用者がおりますから、あまり妨げにならないように考えたい。緑分館の学習室三部屋は、日中の時間帯は予め抑えてあるように、やるとしたらそういう形になるが、既存の団体の活動との調整が必要になる。

【委員長】公民館の関係するサークルに提案してもらって、放課後子ども教室のお手伝いをしてもらえるような新しい企画が持ち込まれるとありがたい。

## (2) 放課後子ども教室の予算内訳と進捗状況について

【事務局】資料に基づき、各校区別の予算額と4月から8月までの執行状況について説明

## (3) 協議会の報告について

【事務局】前回の運営委員会で配布したニ小以外の協議会の会議録を資料配布。簡単に各校ごと説明。

【外部委員】緑小協議会の報告の中で、緑センター等で居場所の確保ができれば、放課後子ども教室をその日はやらなくてもいいと話があったが、コミュニテースクールの一環としてのものか。

【事務局】コミュニテースクールとはまた別です。

【内部委員】緑小学校で今年度からコミュニテースクールの研究をやってもらっている。コミュニテースクールとは、地域の方と一緒に学校を運営していくもので学校運営連絡会というのが今各学校にあるが、それを学校運営協議会と一つ上にして協議しながら学校を運営していく。今までは校長先生がこういうふうにやっていたものを、今度は校長先生がこういうふうにやりたいというのを地域の方に認めてもらって意見をいただきながら学校を運営していく協議体です。先ほどの放課後のものは、これとともに地域学校協働本部というものがあって、両方があるとますます学校と地域の連携・協働ができます。まずはコミュニテースクールを研究して次年度から緑小で始めて、他校でも手を挙げてもらう。今やっていることがコミュニテースクールを進めていくとますます一体化してできていく。ということで教育長が進めている。

【外部委員】コミュニテースクールと学校運営協議会とは違うものか。

【内部委員】学校運営協議会を立ち上げることがコミュニテースクール。

【外部委員】既にやっている武蔵野ではうまくいっているか。教員の異動にも意見が言えるようになってきているようだが。

【内部委員】例えば、英語が得意な先生がほしいとか意見をいただくことはできるが、必ずしもかなえることはできないかもしれないが、教育委員会として考えていく方

向に動く。

【外部委員】学校の運営に一部関与できるようになっていくか。

【内部委員】そういうことになる。

【外部委員】まだ、検討の段階か。

【内部委員】来年度から緑小で本格的にやれる見通し。令和3年度は手を挙げた学校から始める予定。

【委員長】武蔵野でやっているのか。

【内部委員】三鷹です。

【外部委員】どういうところが変わっていくのか。

【内部委員】大きくは変わらない。学校の経営方針を承認してもらう。人事について希望を出してもらう。地域学校協働本部とともに、学校を支えていく。校長先生が変わっても、学校が変わらなくする。

【副委員長】新総合プランが、コミュニテースクールと地域学校協働本部事業、どちらの方に関係しているか。コミュニテースクールではなく、私たちの活動は地域学校協働本部事業の方に組み込まれているのか。

【内部委員】そのとおりです。

【委員長】次回までに、まとめた報告をいただきたい。

【内部委員】コミュニテースクールは学校教育マター。地域学校協働本部は学校教育を離れた社会教育、法律でいうと社会教育法の改正に伴った事業でありまして、法律の根拠でいうと別のもので思っています。ただ、地域で子どもを見守るところで学校教育部と生涯学習部と連携して進めていく事務だと思っています。

【内部委員】次回、もっとわかりやすく説明させていただきたい。

#### (4) 今後の放課後子ども教室の方針について

【事務局】資料について説明

【外部委員】これを実現するには、人、場所、お金の三つの問題がある。最近、児童が増えてきている。将来を見通した場合、どうやってクリアしていくことができるのか。特に場所について、見通しが立つのか。

【内部委員】人、場所、予算の問題は課題であると認識している。場所の問題は、特に小金井の場合、子どもの数が増えていて、さらに共働き家庭が増えて、ニーズが高まっている。協議会の中で、学校にご協力いただいて、今まで使えなかったところが使えるようになったり、運用の仕方によっては、場所の確保はできるかと思っている。プレハブを建てるのは現実的に難しいので、まずは先生方に協力してもらいながら確保していく。協議会を去年、今年とやってきて成果が出てきている。まだまだ足りないなので、学校だけでなく、社会教育施設も考えていかなければならない。緑小の協議会の中でも、社会教育施設があるので、放課後子ども教室を5日に増やすだけではなく、居場所の選択場所があればいいのではないかという議論もあった。各学校区の実情もあるので、一律に同じようにやるのは難しい。各学校の状況に合わせながら場所を充実させていきたい。課題は多いが、まずは学校の協力をお願いしながら進めていきたい。

【外部委員】厳しい状況であることはわかっているが、総合プランで子どもたちの安

- 全な居場所を確保することは大事なこと。子どもだけでなく、大人も高齢者も場所を探しているので、小金井市全体で、場所の問題を考えていかなければならない。
- 【委員長】放課後の場合、例えば、図書館の一室を開けてもらおうと分散して見守りの人を派遣しなければならず予算が必要になる。予算を獲得していく見込みがあるのかないのか、事業を展開していく上で、重要な問題。実際に他市とは違う状況で、小金井は人口が増えていくので、具体的に対応願いたい。
- 【外部委員】学校区ごとの状況をみながら優先順位を決めていくとお話があった。学校区でどういう社会教育施設等あるか把握した上で計画を考えていかなければならない。適正なモデルをどこでどのように作ろうとしているか。ニ小は近くに児童館、図書館もなく、裏に上水会館があるが、個人的に把握しきれていない。
- 【内部委員】なかなか難しい。本当に協議会で学校区ごとに違うことが分かった。一律に同じ形、モデルという形は難しい。各学校区ごとに考えていく。協議会で話を進めながら、各学校区のやり方を決めていきたい。
- 【外部委員】公園は見守りがない。見守りがあった方がいい。ニ小では校庭に大人の目がないのが心配と話があった。小金井市としてではなく、それぞれの学校の協議会の中での方針になるか。
- 【内部委員】この事業は安全・安心な居場所から始まった。その根底は変わっていない。見守り安全な場所を確保するのが根底にある。その上で各学校区で独自性があると思っている。

(5) その他

- 【事務局】前回の会議録の確認をお願いします。
- 【コーディネーター】本町小から今年度予算については、検討していただけるか
- 【内部委員】検討してまいりたい。
- 【コーディネーター】スケジュール的に大丈夫か。来年度予算は。
- 【内部委員】来年度は、事務局としては拡大していきたい。
- 【コーディネーター】今後の方針について戻らせていただきたい。今年度本町小が週五日になるが、来年度一校について決まっているのか。週五日を一校増やしていくことについて、どうやって決めていくか。学童の飽和状態を加味するのか。
- 【内部委員】順次拡大して増やしていきたい。来年度どこかというのは検討中。どういう基準、地域性を含めてなのかについては、協議会、学童の飽和状態等含めて検討はしていきたい。次年度以降については検討していきたい。
- 【コーディネーター】本町小に決まった経緯を伺いたい。来年5校という方針があると聞いた。
- 【内部委員】5校は今初めて聞いた。居場所の充実をできる範囲で順次やっていきたい。本町小は週四日やられていて、先行実施校としてできやすい環境と判断した。
- 【委員長】方針としては週五日としてでているが、行政の対応が遅れている。日数を増やさなくても内容を充実させるだけでも予算は増えていくので、予算の問題は重要。最低賃金もあがったので、手当の充実も必要。今後ともこの議論はしていかなければならない。
- 【コーディネーター】予算資料の東小と前原小の人数が0人になっているので、送っ

たデータを反映させてほしい。

**【コーディネーター】**今年度の予算については、3学期の計画を11月に立てるので、11月中旬くらいまでに方向を示してほしい。来年度予算については、各学校にまかせて予算を組んでいいのか。生涯学習課からどこどこは週五日で組むよう依頼があるのか。

**【委員長】**行政の仕事の慣習でいくと、10月に折衝があつて、議会に提出するものが1月にできる。そのような状況で要望はしますという話なら出ると思うが具体的には難しいのではないか。運営委員会としても、週五日に向けて予算の増額等にご協力いただきたい。これをもって第3回の運営委員会終了とする。